科研費

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号: 15501 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2011~2014

課題番号: 23501149

研究課題名(和文)教員養成における自発的研修活動の効果と評価方法の確立

研究課題名(英文) A study on the effect and evaluation of voluntary training in the teacher training.

研究代表者

岡村 吉永 (OKAMURA, YOSHIHISA)

山口大学・教育学部・教授

研究者番号:10204025

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文): 学校教員を目指す学生が行う自発的研修について、その位置づけや意義、実践の効果を高めるための振り返りの方法などについて検討を行った。学校で行う学習支援等のボランティア活動は、学生の主体性に任されることが多いが、効果を高めるためには、大学が有するカリキュラムや卒業研究と関連付けることが求められる。本研究は、こうした学生の自発的研修を支えるカリキュラムおよびその具体的な実施、実践を効果的に記録し省察を支援する方法について提案と確認を行った。

研究成果の概要(英文): With respect to voluntary trainings of the students who aim for a school teacher, We examined the positioning and meaning, and the reviewing methods to enhance the effectiveness of practice.

In many cases volunteer activities such as learning support conducted at school are left to the independence of mind of participating students. However, it is necessary to associate with the curriculum of a university and graduation research in order to enhance the effectiveness. In this research, We made a proposal and confirmed with respect to the curriculum to support voluntary trainings of such students, the specific contents and the method to effectively record the practice and support the reflection.

研究分野: 教育工学

キーワード: 教育工学 教師教育 自発的研修活動

1.研究開始当初の背景

中教審答申「今後の教員養成・免許制度の 在り方について」(2006年7月11日)等にみ られるように、社会の大きな変動を受けて、 「教員の資質向上」ならびに「学部段階の教 育」に関する質的保証が求められるようにな ってきた。現在多くの教員養成系大学学部が 取り組んでいるボランティアやインターン シップなどの自発的活動は、実践を通して教 員に求められる資質能力の向上が図られる ことを期待するものであるが、その評価につ いては未だに指針と呼べるものがなく、効果 に関する検証も不十分なままである。結果と して、これが教員養成教育における自発的活 動の意義を不明確にし、活動内容や質のばら つきを大きくする要因の一つともなってい る。教員養成における質的保証の観点からも、 早急な改善が必要である。

2.研究の目的

これからの学校教員には、社会の大きな変動とこれに起因する様々な事象に適切いられている。近年、教員養成では、こうした能力を獲得する一方策として、ボランティアの自発のできるとして、ボランティの自発のでは、学生の自発のできるが多く取り入れられるようになって大きる。が多くでは、主にこうした自発のであるが、特にでは、主にこうした自発の修活動では、主にこうした自発の修活動では、主にこうした自発の修活動では、主にこうした自発の修活動では、その効果や適切な評価方法、特に価格がでは、その効果を調整として、事後評価を教員養成教育へ還元するための具体的とする。

3.研究の方法

本申請では,内容を2つの課題に整理し研究を推進する。

課題1は,自発的研修活動を支える評価方法の検討および研修効果に関するもので、まず現在行われている研修の実態や評価のあり方を調査整理し、基礎資料とする。続いて、自己評価シートをもとに自発的な研修に参加した学生の時系列的な変化や異群間での比較分析等を行い、最終的に実用性の高い評価方法の提案を行う。

課題2では、まず自発的な研修に関わる各当事者(学生および大学教員等)が有する評価イメージとそのずれを明確化し、設定されるべき評価指標を検討するための基礎資料とする。さらに、これらに課題1の成果を加えて評価のハイパーサイクル化を行い、その組織化と新たな評価指標創出を試みる。最終的に、ここで得られた評価指標ならびに課題1の評価方法を用いて自発的研修活動の事後評価を行い、成果や課題を新たな実践に還元させるための方策を検討する。

4.研究成果

(1)学校教員を目指す学生が、その資質ならびに実践力向上を目的として地域の学校で行う自発的研修活動について、他大学等の例を調査するとともに、山口大学教育学部が培ってきた「ちゃぶ台方式」を教員養成の仕組みに活用するための要点を整理した。

国立系の教員養成系大学・学部を中心に聞き取り調査をした結果は、教職実践演習導列の影響もあって、各大学とも学生の自己評価を推進しようとしているが、その方式や評価項目等にかなりの違いがみられる。ただしいずれもPDCAサイクルを意識した仕身の学びに還元する工夫がなされているのは、「の共通した傾向といえよう。図1は、「の共通した傾向といえよう。図1は、「の共通した小学校教員養成の近ちが直接が確実に行実施されるとが連携するよう図られている。

また調査では、社会的マイノリティー者を 理解するためのヒューマンライブラリー活動についても調査を行った。この活動は、 様な価値観や他者理解を育む効果があり、、 際化やインクルーシブ教育への対応があり。 れる学校教育ならびに教員養成に貴重学校 を与えてくれるものである。山口大育は 唆を与えてくれるものである。山口大育 学部小学校教育コース(以下小学校教育コース)では、平成25、26年度に授業(学コース)では、平成25、26年度に授業(学生が協働実践)でこの活動に取り組み、学生が協働実践)でこの活動に取り組み、学生が協働実践)でこの活動に取り組み、学生が協働実践)でこの活動に取り組み、学生が協働実践)でこの活動に取り組み、学生が関係を踏まえて人をまなざす視点を持てる

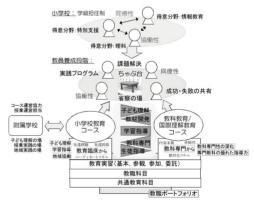


図1「ちゃぶ台方式」を活用した小学校教員養成の仕組み(小学校教育コース)

(2)学生が地域の小学校等で行う自発的研修活動と連携したカリキュラムとその効果について検討した。「ちゃぶ台方式」をカリキュラムに連携させた結果、小学校教育コースでは、学生の自発的研修活動が暗黙的なカリキュラムについては、小学校教員に求められる全般的な能力として「学習指導」「子ども理解」「協働実践」を3つの系を軸に据え、に基づく授業科目群を整理し、各学年にバランス良く配置した。平成21年度の入学者

から実施し、研究期間中にその効果を検証したところ、いくつか科目の見直しや各系間での入れ替えも必要となったものの、おおむなりな効果を得ることができた。その要因としては、学外での研修活動を授業に関連付け、組織的かつ計画的に実施したことがあげられる。さらに、その効果を高めるため、小学校教育コースでは、学生の自発的研修活動模で学級規模によって、学生の参加形態や対学を学級規模によって、学生の参加形態や対対で関に多少の差はあるが、学校や児童に高い容が、学校や児童に富いでおり、資料性の高い卒業研究となっている。

(3) 自発的研修活動に参加した学生の意識と 批判的思考態度の関係を明らかにする一方、 こうした活動をどう評価していくかについ て、学校教員の経験を有する実務家教員を中 心に検討を行った。自発的研修活動に参加し た学生の意識については、客観性や探究心に やや相関がみられるが、さらに研究が必要で ある。また、学生の意識の変化などを知る省 察用ツールとして、本研究の知見などをもと に図2に示す「発見ノート」の改良を行った。 学生の自発的研修活動と授業を連携させる ためには、共通の形式に沿った活動記録が必 要であり、かつ授業参加者が相互にその情報 を閲覧し相互評価しあえることが望ましい。 改良の効果については、卒業研究や授業での 活用も含め、さらに明らかにして行く。

なお、こうした自発的研修活動は、学校教員を目指す学生の資質・能力の向上を目的として実施される。研究では、その意義や評価について、学校教員の経験が十分な実務家教員への聞き取りを行った。その中で、教員を成の効果をあげるために、ポリシーに沿ったカリキュラムが構成されていること、学部4年間を俯瞰した学びの道筋が学生の側にも共有され、それを記録として残していく努力



図2 実践活動の記録・省察用ノート

が求められること、その際、実践と省察、指 導教員による評価が重要であることなどが 指摘された。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

<u>岡村吉永、田中理絵、沖林洋平、南浦涼介、源田智子、岸本憲一良、鷹岡亮、実践活動と連携したカリキュラムのあり方について、山口大学教育学部教育実践センター紀要、査読無、39 巻、2015 、83 - 92</u>

<u>岡村吉永、霜川正幸</u>、静屋智、藤上真弓、 松本清治、実務家教員からみた教員養成教育 への提言、山口大学教育学部教育実践センタ ー紀要、査読無、39 巻、2015 、93 - 101

南浦涼介、源田智子、岡村吉永、教師教育の場で「学校」を超える自発的活動をする 意味と可能性、山口大学教育学部教育実践センター紀要、査読無、39巻、2015、78-82

久保田尚、松本清治、<u>岡村吉永、霜川正</u> <u>幸</u>、実践活動に基づく卒業研究の検討、山口 大学教育学部教育実践センター紀要、査読無、 37 巻、2014 、1 - 6

<u>沖林洋平</u>、教育学部生における教員志望 意識と批判的思考態度の関係、山口大学教育 学部論叢、査読無、第 63 巻、2013、31 - 34

<u>岡村吉永、霜川正幸、久保田尚</u>、松本清治、教員としての実践力を高める教員養成の試み - 小学校教育コースの設計と4年間の歩み - 、山口大学教育学部論叢、査読無、62巻、2012、78 - 80

西田若葉、<u>沖林洋平</u>、教育学部生のアイデンティティ・スタイルと well-being の関連、山口大学教育学部論叢、査読無、62 巻、2012、113-120

南浦涼介、<u>岸本憲一良</u>、<u>岡村吉永</u>、学生の自発的研修活動に関する基礎的研究(1) 山口大学教育学部教育実践センター紀要、査 読無、33巻、2012、63-68

鷹岡亮、<u>沖林洋平、霜川正幸、田中理絵、源田智子、久保田尚、岡村吉永</u>、学生の自発的研修活動に関する基礎的研究(2)、山口大学教育学部教育実践センター紀要、査読無、33巻、2012、69-76

〔学会発表〕(計2件)

<u>霜川正幸</u>、ミドルリーダー養成に特化した現職教員研修モデルの開発、平成 26 年度

日本教育大学協会研究集会、2014.10.18、仙台国際センター(宮城県仙台市)

<u>霜川正幸</u>、教員養成系大学において「交流人事教員」が果たしてきた役割と課題、全国教員養成系大学交流人事教員交流会、2014.9.19、岐阜大学(岐阜県岐阜市)

[図書](計0件)

〔産業財産権〕 出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種号: 番号: 日日: 国内外の別:

取得状況(計0件)

出願年月日: 取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

6.研究組織

(1)研究代表者

岡村 吉永 (OKAMURA, Yoshihisa) 山口大学・教育学部・教授 研究者番号: 10204025

(2)研究分担者

霜川 正幸 (SHIMOKAWA, Masayuki) 山口大学・教育学部・教授 研究者番号:80437615

鷹岡 亮 (TAKAOKA, Ryo) 山口大学・教育学部・教授 研究者番号:10293135

沖林 洋平 (OKIBAYASHI, Yohei) 山口大学・教育学部・准教授 研究者番号: 20403595

岸本 憲一良(KISHIMOTO, Kenichirou) 山口大学・教育学部・教授 研究者番号:90437616 源田 智子 (GENDA, Tomoko) 山口大学・教育学部・准教授 研究者番号: 70144904

田中 理絵 (TANAKA, Rie) 山口大学・教育学部・准教授 研究者番号:80335778

南浦 涼介 (MINAMIURA, Ryousuke) 山口大学・教育学部・講師 研究者番号:60598754

久保田 尚 (KUBOTA, Takashi) 山口大学・教育学部・准教授 研究者番号:30610860 (平成24年度より研究分担者)

長谷川 裕 (HASEGAWA, Yutaka) 山口大学・教育学部・准教授 研究者番号:3055719 (平成23年度まで研究分担者)